



この人に聞く下田まち遺産。

「職人さんと二人三脚」

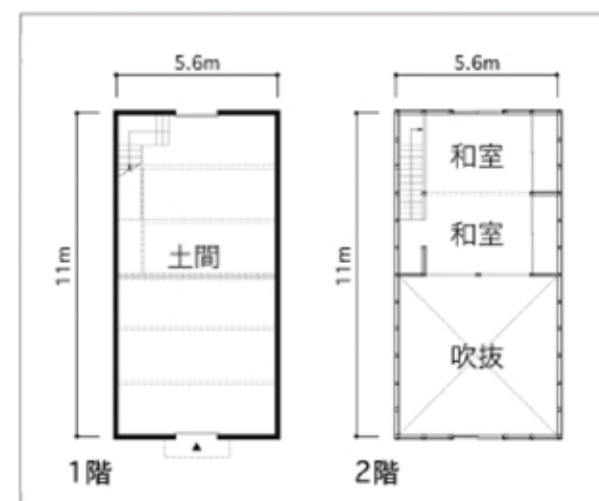
榎田雅志さん(クシダレコード店主)

インタビュー松下(建設課)

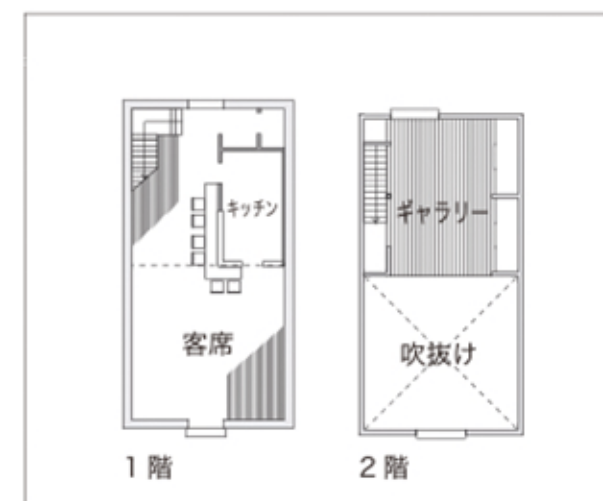
自ら所有する石蔵を改修し、2013年1月にお店をオープンすることになった榎田蔵(下田登録まち遺産)オーナー榎田さんに聞きました。

榎田雅志 くしだまさし

昭和25年生まれ。現在62歳。レコード店経営の傍ら、ミュージシャンとしても活躍。龍馬を歌ったオリジナル曲「YO・A・KE〜龍馬飛翔〜」、龍馬の妻・お龍を歌った「愛の記憶」がCDでそれぞれ全国発売している。



工事前の榎田蔵の平面図



現在の榎田蔵の平面図

榎田さんに質問してみました。 ※榎田蔵の場所は本誌10ページ

Q1 榎田蔵は今まではどのように使われていましたか？

A 榎田家の所有になったのは昭和40年です。その前は違う方の所有でした。この蔵ができたのは明治中期だと聞いています。昭和50年には蔵の前に建物があって、クリーニング店が営業していました。昭和49年の伊豆半島沖地震では、蔵の裏手側にあるレコード店が壊れ、蔵を住居代わりにしたこともあります。その後は、倉庫として使っていました。

Q2 今回の改装を思い立ったキッカケは？

A 2008年に開催された蔵で企画したプロジェクト(ページ右記載)を機に、色々な人から、「いい蔵だね!」と声をかけてもらいました。当初、誰かに貸そうと考えましたが、なかなか良い借り主が見つからず、最終的には夫婦共々「自分たちがやらなきゃ」と思い立ちました。また、市からも「どうにか残してもらいたい」と声をかけてもらって、気持ちが伝わりました。キッカケはそうしたことからですね。

Q3 改装後はどういったことを計画していますか？

A 基本的にはCDショップとカフェを併用した店舗を営業します。定期的に音楽イベントもやりたいです。2階はギャラリーとして開放しようと思っているので、多目的に使えれば面白いですね。

Q4 伝統的な建築物である蔵を改装する上での苦労は？

A この建物を活かすには、伝統的な技法をあるレベルで守らなきゃいけないと思っています。だから、職人さんと呼んで作業してもらっています。例えば、漆喰ひとつとっても、今では素人でもできる材料があります。だけれど、それを素人がやってしまえば蔵の雰囲気壊れてしまいます。だから、あらゆるところで気を遣って取り組んでいます。穴を一つあけるのにも悩んでいます。手間ひまかけるので、時間とお金がかかる。すでに予算オーバーです(苦笑)。

Q5 改装は一緒にやっているのですか？

A はい。できるところは手伝っています。大工さんの邪魔をしないように(笑)。大変なこともあるけど楽しいですよ。職人さんもこういった蔵の改装に関われて嬉しいと言ってくれますし。中庭はお金をかけられないので自分で片付けました。みかんの木がありますし、ここにテーブルと椅子が入れば良いテラスができます。

最後に一言

Q6 皆さんの力も借りてオープンする榎田蔵なので、実際に来て見て欲しいですね。古い蔵でもこれだけ魅力的な空間に出来ることを知って欲しいですし、今後こうした事例が増えることを望みます。



小さなプロジェクトが榎田蔵復活の架け橋に。

今回の榎田蔵の改修工事のきっかけとなったプロジェクトがあります。そのプロジェクトは今回の改修計画の設計者である小川弾さんが中心として2008年に行われた、その名も「くしだ蔵プロジェクト」。当時、まだ倉庫として使われていた榎田蔵をプロジェクトメンバーで片付け、掃除することから始まり、蔵の中に人を招き入れて、企画展などを行いました。閉じていた蔵を一般公開することで、その価値を再確認したオーナーである榎田さんは、この時から蔵の見方が変わったと振り返ります。小川さんなどの働きかけが、榎田さんの心を動かし、榎田蔵の復活に繋がったのです。



くしだ蔵プロジェクト時の外観。色とりどりのカーペットタイルを道路まで敷き詰めています。



プロジェクトでは、石壁にパネルを設置し、蔵内中央にテーブルを配置して展示が行われました。

古民家再生にも役立つ！榎田蔵の改装工事8つのポイント。

その1 漆喰工事



左官職人によって内装壁の漆喰を塗り直しています。新たに塗った壁は白く輝いています。

その2 フローリング工事



底冷えを防ぐためにと榎田さんがこだわったフローリング床。お客さんを気遣う榎田さんならではの。

その3 キッチン・トイレ設備



蔵の雰囲気を残すために、水道設備はまとめて一カ所に。角にまとめることで、L型の大空間を作っています。

その4 暖房設備



コストも考え、一般のエアコンを目に付かないように配置。配管の穴も注意を払って空けています。

その5 ギャラリースペース



2階は畳からフローリングに張り替え、ギャラリースペースとして活用。1階を見下ろせるのも楽しい。

その6 外観をいじらない



お店の顔となるなまこ壁と伊豆石の外観は、あえていじらず、そのインパクトを活かしています。

その7 中庭をテラスに



雑多な印象の中庭は整理されてテラスに。みかんの木の木漏れ日が落ちる素敵な空間に。

その8 目隠しに横格子



入口には目隠しとして木製の横格子を配置。蔵の景観を守るために効果を発揮しています。